

体験的な学習 中学校（第3学年）

取り上げた内容項目

家族愛，家庭生活の充実

「家族愛，家庭生活の充実」に関する生徒の実態から

「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をしますか」という質問に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は70%程度であることから、家族との関わり大切さを一層実感させていきたい。

技術・家庭 家庭分野（10月）「これからのわたしと家族」

・家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域との関わりについて理解するとともに、これからの自分と家族との関わりにも関心をもち、家族関係をより良くする方法を考える。

○主題名：「家族への愛情」C-（14）

○実施時期：11月

○教材名：「1冊のノート」【「私たちの道徳」（中学校）P186～193】

○ねらい：かけがえのない家族の存在に気づき、その一員として関わり合いながら、充実した家庭生活を築こうとする態度を養う。

段階	学習活動	主な発問等
導入	1 家族と一緒にいてよかったと思った経験について話し合う。	○あなたが家族と一緒にいて「いいな。」と思うのは、どのような時ですか。 (予想される生徒の発言) ・悩みを聞いてもらった時。 ・一緒に旅行に行った時。
展開	家族との関わりについて考えよう。	
	【資料の前半部分を配付】 2 「1冊のノート」の読み聞かせを聞き、主人公「僕」の心情の変化について発問や役割演技を通して考える。	○「僕ら迷惑しているんだ」と言った「僕」は、「祖母」に対してどんな思いを抱いているだろう。 (予想される生徒の発言) ・怒りや腹立だしい思い。 ○買い物に行った「祖母」とすれ違う時の「僕」は、どんなことを考えて、知らん顔をして通り過ぎたのだろう。 (予想される生徒の発言) ・格好悪い。恥ずかしい。 ・友達に自分の家族だと知られたくない。 ○「僕」が「祖母」を激しくののしった場面を演じ、その時の「僕」の気持ちを想像しよう。 (予想される生徒の発言) ・なんてことをしてくれたんだ、おばあちゃん。 ・絶対におばあちゃんを許さないぞ。

「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた指導のポイント

◆展開前段に発問が多く、役割演技の場面もあることから、展開前段はテンポよく進め、資料の展開や、主人公の心情を理解させます。

段階	学習活動	主な発問等
展開	【資料の後半部分を配付】 3 おばあちゃんのノートを読んだ後の「僕」の心情を役割演技を通して考える。	
	4 本時を振り返り、「家族」について考えたことについて感想を書き、交流する。	(予想される生徒の発言) ・おばあちゃんの思いに気付かず、ひどいこと言っ てごめんね。 ・今までありがとう、長生きしてね。
終末	5 教師の説話を聞く。	○家族のよさや、共に生活することのよさなどについて話す。

**「僕」は「祖母」一緒に並んで草取りをしながら、心の中で何と
言っているのでしょうか。**

中心的な発問

◆展開後段の役割演技では、役割演技を通して、主人公の心情の移り変わりを捉えさせるとともに、その様子を見たことをもとに、問題場面において自分が取り得る行動について考え、道徳的価値の意味の理解を深めます。

**今日の学習を通して、あなたは「家族」について、どんなことを
考えましたか。**

人間としての生き方について考えさせる発問

◆展開後段で理解した道徳的価値に基づいて本時の授業を振り返り、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それら进行交流して自分の考えを深めたりします。

特別活動（12月）「冬休みの過ごし方」
 ・自己のよさを生かすとともに、家族の一員として働くことなどに関心を持ち、自主的、自律的に日常生活や学習に取り組もうとする意識を高める。

（授業づくりのポイント②）
 体験的な学習を取り入れる際には、単に活動を行って終わるのではなく、生徒が体験を通じて学んだことを振り返り、その意義について考えることが大切です。体験的な学習を通して道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するための資質・能力の育成に資するように十分に留意する必要があります。